

平成 29 年度第 1 回 ISO/TC46 本委員会議事録

1. 日時： 2017 年 7 月 3 日 (月) 14 時 ~ 16 時

2. 場所： 日本図書館協会会館 5 階 会議室 1

3. 出席：

委員 宮澤彰 国立情報学研究所名誉教授 (委員長)

保坂裕興 学習院大学

田良島哲 東京国立博物館

堀 純子 国立国会図書館

風間吉之 国立公文書館

斉藤隆行 科学技術振興機構

植村八潮 電子出版制作・流通協議会 (専修大学)

中野 茂 大日本印刷

小出啓介 経済産業省

事務局 光富健一 情報科学技術協会

4. 配付資料：

資料 1：「平成 29 年度戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準
開発活動実施計画書 (テーマ名：デジタルアーカイブ利活用のための国際
標準化)」

資料 3：ISO3166/MA 会議 (第 39 回) 報告 資料 2 は欠番

資料 4：ISO/TC46 プレトリア総会報告

資料 5：2020 年 TC46 meeting week ホスト要請の件

資料 6：平成 29 年度 ISO/TC46 投票報告

資料 7：標準化テーマ調査票 (「テーマ名：デジタルアーカイブのメタデータ流通性
を高めるための国際標準開発」)

5. 議題

・ 前回議事録確認

「平成 28 年度第 2 回 ISO/TC46 本委員会議事録」が配布され、異議なく、確認された。

1) 平成 29 年度実施計画

12 頁のスケジュール表をもとに、次の説明がなされた。すなわち、ISO より 22038 の番号が付与された「 デジタルアーカイブ利活用のための国際標準化」については CD 投票まで進める計画、ILII、「 デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子の国際標準化」は DIS 投票中で、発行段階まで進める計画であること、及び「 デジタルアーカイブ国際標準化活動のための環境整備」では順次 SC 委員会を開催し、関連情報等を収集

する予定であることが報告された。

につき CD 投票までに着実に準備を重ねることが重要であるとの指摘がなされた。これについては次の議題の中で詳論された。

2) 実施計画進捗状況報告

2-1) 「デジタルアーカイブ利活用のための国際標準化」

ISO/TC46/SC9 の中に WG14 を作って活動していくことが可決された。宮澤彰本委員会委員長がこの WG14 (ISO 22038 Information and Documentation – Description and presentation of rights information) のリーダー (任期 3 年) とすることが決議された (資料 4、31 頁)。これについてはメーリングリストで準備のための議論をしているものの ISO システム上では、WG14 が未発足であり、対応を急ぐよう働きかけている。国際 SC9 事務局の動きが鈍く、幹事のパフォーマンスが悪いようだが対応策等はいかがかとの質問があった。あまり督促をすると最後は自分方で担当することとなるおそれもあり、国内委員会 WG1 を中心に周到に準備を進めることとされた。

2-2) 「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」

明日 DIS 投票が終わる。Editorial comments に留まるものと考えられる。懸念されるのは、SC9 事務局に投票原案を提出してから DIS 投票開始までに 3 ヶ月を要したことである。

投票において予想外の反応がない限り、順調に進む予定である。必要があれば、国内委員会 WG2 を招集する。

2-3) 「デジタルアーカイブ国際標準化活動のための環境整備」

議題 4 のプレトリア報告において扱う。

3) ISO 3166 国名コード/MA 会議 (2017 年 2 月 2 日・3 日、ジュネーブ)

資料 3 により説明が行われた。3 メンバの追加があったが、実際にはその中国とケニアは欠席であった。また、ケニアは投票不参加やメールへの不回答があり、除名が検討された。

4) ISO/TC46 プレトリア総会報告

いずれも資料 4 のうち、SC4 は 20 ~ 25 頁、SC9 は 26 ~ 32 頁、SC11 は 33 ~ 38 頁、TC46 総会 39 ~ 41 頁の資料により説明が行われた。

SC4 JWG (JTC1/SC34) EPUB では、EPUB 文書の長期保存が検討され、そのためのメタデータに焦点が集まっていること、SC4 総会関連ではデファクトとなっているものを ISO 化するプロジェクトが増えている中、リエゾンをとらないと上手く進捗しないと見られること等が報告された。SC11 では ISO/DTS 21946 「記録管理のための評価」を格下げし TR とすること、及び WG16 Systems design for records が ISO16175 の SR (定期見直し) を担当すること等が報告された。

5) 2020年 TC46 meeting week ホスト要請の件

2019年総会のホスト国カナダの補欠ホスト国、並びに2020年又はそれ以降の年におけるホスト国要請があった。回答期限は2017年末か翌年1月。

次の諸点につき説明及び質疑応答が行われた。

- ・経産省による支援の場合、基本的に会議費のみ（会場費＋お茶程度）であり、ディナー費用等は支出できない。委託事業とする場合に支援内容は異なるが、日本の規格をISO化するため発言力を高めるなど意義を明確にしなければならない。
- ・想定されるのは、会議室は同時に最大10室程度、期間は月曜日～金曜日の5日間、5月開催。日本入国のためのビザ取得が必要な参加者への対応事務等が発生する。開催の4ヶ月前までに基本案内。事務委託は可能。
- ・松江市等の国際会議誘致都市を使う場合は、ディナー費用のほか、招聘費用等まで補助がある場合がある。
- ・問題は、人・物・金を含めて、積極的に担当するという人物又はSC等が存在するかどうかということ。それがないと実現はむずかしいのではないか。

以上をふまえて、もう少しのあいだ様子を見るが、総会招致は現実的には難しいと考えられるので、断る方向とする。またそののち数年は状況が変わらないと判断する。

回答のタイミングについては宮澤委員長に一任することを確認した。

6) 平成29年度 ISO/TC46 投票報告

資料6に基づき確認した。

7) その他

- ・平成30年度以降の委託研究について、資料7を基にして検討を行った。現段階のテーマ名は「デジタルアーカイブのメタデータ流通性を高めるための国際標準開発」であり、デジタルアーカイブのメタデータ・レジストリの標準化をはかることを通して運用性を高め、デジタルアーカイブの利便性を高めるものである。
- ・委員より、資料9～11頁の各委員会のメンバ表が最新の状況を反映していない部分があるので修正を願うとの発言あり。事務局で対応することとした。

以上。